

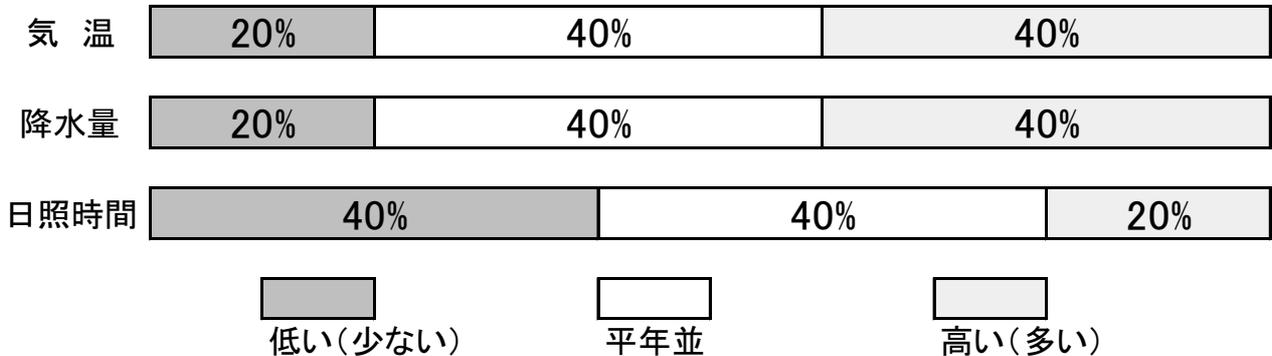
令和4年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

令和4年5月2日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並～やや多い
	イネ	うどんこ病	平年並
		ヒメトビウンカ	平年並
果樹	ナシ	ニカメイチュウ	平年並
		イネミズゾウムシ	やや多い
		黒斑病	平年並～やや多い
	カキ	黒星病	平年並～やや多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	平年並
野菜	タマネギ	ハダニ類	やや少ない
		灰色かび病	平年並～やや多い
	イチゴ	カキクダアザミウマ	平年並
		ボトリフス属菌による葉枯れ	やや多い
		べと病	平年並～やや多い
		腐敗病・軟腐病	平年並～やや多い
イチゴ	灰色かび病	やや少ない	
	うどんこ病	平年並	
	アブラムシ類	平年並～やや多い	
		ハダニ類	やや少ない～平年並

中国地方1か月予報(4月30日～5月29日・広島地方気象台4月28日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

② ムギの生育は平年並みである。

③ 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや多い

- 予報の根拠
 ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
 ② ムギの生育は平年並みである。
 ③ 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) うどんこ病

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生量 平年並

- 予報の根拠
 ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
 ② ムギの生育は早い。
 ③ 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並

- 予報の根拠
 ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認めていない。
 ② 4月中旬のすくい取り調査（耕起前）では、発生ほ場率は20.9%（平年34.8%）、捕獲数は0.5頭/20回振（平年1.3頭）で発生量は平年並みである。
 ③ 越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は定点調査では0%（平年0.6%）と低いものの、一部の縞葉枯病発生地域では保毒虫率が高い。
 ④ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 平年並

- 予報の根拠
 ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認めていない。フェロモントラップでの誘殺は4月第6半旬に認められ平年並みである。
 ② 前年の第2世代成虫の予察灯への飛来は7頭（平年12.8頭）と平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
 ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容
 発生地方 県内全域
 発生時期 平年並
 発生量 やや多い

- 予報の根拠
 ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬までに0頭（平年0.0頭）と平年並みである。
 ② 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は90頭（平年66.1頭）と本年の越冬量は平年と比べてやや多いと考えられる。
 ③ 5月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
 発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
 発生量 平年並～やや多い

- 予報の根拠
 ① 4月下旬の巡回調査では発生を確認しておらず、発生量は平年並みである。
 ② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容
 発生地方 県内ナシ栽培地帯
 発生量 平年並～やや多い

- 予報の根拠
 ① 4月下旬の巡回調査では発生を確認しておらず、発生量は平年並みである。
 ② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 やや多い

予報の根拠
① 初飛来日は4月5日とやや早い。
② 前年の性フェロモントラップでのナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
③ 5月の気象は、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

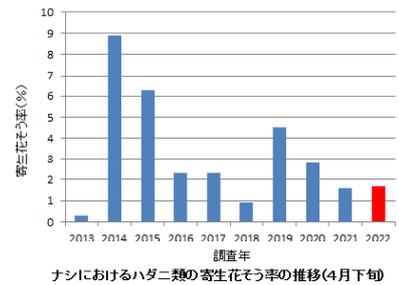
予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 平年並

予報の根拠
① 性フェロモントラップの初誘殺は4月第1半旬とやや早く、誘殺数は平年並みである。
② 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠
① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
② 4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は1.7%(平年4.3%)で平年に比べてやや少ない。主要種はクワオオハダニで、本種に効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。
③ 5月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。



2) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない(平年0.4%)。
② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
① 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認めていない。
② 4月下旬の巡回調査では、巻葉被害を認めていない。
③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠
① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率21.4%(平年3.7%)、発病株率0.3%(平年0.1%)と、発生量は平年に比べてやや多い。
② 5月の気象は、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率25.0%（平成31.5%）、発病株率0.7%（平成3.2%）と、発生量は平成並みである。
- ② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率64.3%（平成42.6%）、発病株率は1.9%（平成3.1%）と、発生量は平成並みである。
- ② 5月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発病葉率0.1%（平成0.6%）、発病果率0.1%（平成0.2%）と、発生量は平成に比べてやや少ない。
- ② 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平成並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発病葉率0.0%（平成0.1%）、発病果率0.2%（平成0.4%）と、発生量は平成並みである。
- ② 5月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平成並～やや多い

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は10.0%（平成23.4%）とやや低かったが、寄生株率が7.0%（平成4.6%）と平成並みである。一部発生が多いほ場が認められ寄生小葉率は4.3%（平成1.5%）と多くなった。
- ② 現在までの黄色水盤への有翅虫の累積飛来量は平成に比べてやや多い。
- ③ 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(4) ハダニ類（ナミハダニなど）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平成並

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が60.0%（平成71.6%）で、寄生株率が40.0%（平成48.6%）、寄生小葉率が27.0%（平成37.6%）といずれもやや少ない。
- ② 5月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp